

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



2021.11.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

- 29:15 私は盲人の目となり、  
足なえの足となった。
- 29:16 私は貧しい者の父であり、  
見知らぬ者の訴訟を調べてやった。
- 29:17 私はまた、不正をする者のあごを砕き、  
その歯の間から獲物を引き抜いた。
- 29:18 そこで私は考えた。  
私は私の巣とともに息絶えるが、  
不死鳥のように、私は日をふやそう。
- 29:19 私の根は水に向かって根を張り、  
夜露が私の枝に宿ろう。
- 29:20 私の栄光は私とともに新しくなり、  
私の弓は私の手で次々に矢を放つ。
- 29:21 人々は、私に聞き入って待ち、  
私の意見にも黙っていた。
- 29:22 私が言ったあとでも言い返さず、  
私の話は彼らの上に降り注いだ。
- 29:23 彼らは雨を待つように私を待ち、  
後の雨を待つように  
彼らは口を大きくあけて待った。
- 29:24 私が彼らにほほえみかけても、  
彼らはそれを信じるができなかった。  
私の顔の光はかげらなかつた。
- 29:25 私は彼らの道を選んでやり、  
首長として座に着いた。  
また、王として軍勢とともに住まい、  
しかも、  
嘆く者を慰める者のようであった。

ヨブが足なえや貧者のために善を行い、悪と戦い、  
良い指導者であったことがわかります。彼はそれによつて  
不死鳥のように長生きすることを期待していましたが、  
王のように威厳があったこともわかります。

”私は正しいので、信仰深いので、神様から祝福されるにふさわしい”と考える人も多いかもしれませんが。または”こんなに神に従ったのだから、祈ったのだから、神は私の願いを聞くべきだ”とも思うかもしれませんが。その場合、聞かれないことがあると神を恨むことになるのです。

ヨブ記のテーマはこの問題にも関係します。確かに「(マタイ 6:4) …(神)が、あなたに報いてくださいます。」とイエス様も言われます。しかし報いはすぐにあるとは限りません。「(ローマ 5:4) …忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」というように、主は私たちの信仰を練り上げ、本当の希望を与えてくださるのです。ヨブのように私たちも練り上げられ、神の品性によって、希望をいただきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



## 23日 火曜

### ヨブ記



- 30:1 しかし今は、私よりも若い者たちが、私をあざ笑う。  
彼らの父は、私が軽く見て、私の群れの番犬とともにいさせたものだ。
- 30:2 彼らの手の力も私に何の役に立とうか。彼らから気が消えうせた。
- 30:3 彼らは欠乏とききんでやつれ、荒れ果てた廃墟の暗やみで砂漠をかじる。
- 30:4 彼らはやぶの中のおかひじきを摘み、えにしだの根を彼らの食物とする。
- 30:5 彼らは世間から追い出され、人々は盗人を追うように、彼らに大声で叫ぶ。
- 30:6 彼らは谷の斜面や、土や岩の穴に住み、
- 30:7 やぶの中でつぶやき、いらくさの下に群がる。
- 30:8 彼らはしれ者の子たち、つまらぬ者の子たち、国からむちでたたき出された者たちだ。
- 30:9 それなのに、今や、私は彼らのあざけりの歌となり、その笑いぐさとなっている。
- 30:10 彼らは私を忌みきらって、私から遠ざかり、私の顔に情け容赦もなくつばきを吐きかける。
- 30:11 神が私の綱を解いて、私を悩まされたので、彼らも手綱を私の前に投げ捨てた。
- 30:12 この悪童どもは、私の右手に立ち、私の足をもつれさせ、私に向かって滅びの道を築いた。
- 30:13 彼らは私の通り道をこわし、

- 私の滅びを押し進める。  
だれも彼らを押し止める者はいない。
- 30:14 彼らは、広い破れ口からはいって来るように、あらしの中を押し寄せて来る。
- 30:15 恐怖が私にふりかかり、私の威厳を、あの風のように追い立てる。  
私の繁栄は雨雲のように過ぎ去った。

不遇な境遇がすさんだ心を生む場合があります。被害者が次には加害者になることもあります。ヨブは救済してあげた人々から、今はさげすまれ苦しめられるようになってしまいました。彼らよりも弱い立場になってしまったのです。しかし、そのような惨めさの中でこそ学べる最高の真理があります。「(ピリピ2:5)あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。…2:8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。2:9 それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。」と聖書にあります。このような生き方を学べるチャンスなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 水曜

### ヨブ記



- 30:16 今、私は心を自分に注ぐ。  
悩みの日に私は捕えられた。
- 30:17 夜は私の骨を私からめぐりと、  
私をむしばむものは、休まない。
- 30:18 それは大きな力で、  
私の着物に姿を変え、  
まるで長服のように  
私に巻きついている。
- 30:19 神は私を泥の中に投げ込み、  
私はちりや灰のようになった。
- 30:20 私はあなたに向かって呼びますが、  
あなたはお答えになりません。  
私が立っていても、  
あなたは私に目を留めてくさいません。
- 30:21 あなたは、私にとって、  
残酷な方に変わられ  
、御手の力で、私を攻めたてられます。
- 30:22 あなたは私を吹き上げて風に乗せ、  
すぐれた知性で、  
私をきりもみにされます。
- 30:23 私は知っています、  
あなたは私を死に帰らせ、  
すべての生き物の集まる家に  
帰らせることを。
- 30:24 それでも、廃墟の中で  
人は手を差し伸べないだろうか。  
その衰えているとき、  
助けを叫ばないだろうか。
- 30:25 私は不運な人のために  
泣かなかっただろうか。  
私のたましいは貧しい者のために  
悲しまなかつただろうか。
- 30:26 私が善を望んだのに、悪が来、

- 光を待ち望んだのに、暗やみが来た。
- 30:27 私のほらわたは、  
休みなく煮えたぎる。  
悩みの日が私に立ち向かっている。
- 30:28 私は、日にも当たらず、  
泣き悲しんで歩き回り、  
つどいの中に立って助けを呼び求める。
- 30:29 私はジャッカル兄弟となり、  
だちょう仲間となった。
- 30:30 私の皮膚は黒ずんではげ落ち、  
骨は熱で焼けている。
- 30:31 私の立琴は喪のためとなり、  
私の笛は泣き悲しむ声となった。

骨がめぐりとられる苦しみは巻きつき、全能の神に攻めたてられるヨブは、惨めさも通り越して、自分をさげすむ人々にさえ助けを求めます。皮膚がはげ落ち、骨が焼けるからです。よくも死を選ばなかったと思うくらいです。

ヤコブ書には「5:11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になされたことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。」とあります。

ヨブの忍耐が多く、迫害に苦しむクリスチャンたちを励ましたのです。すべては主の御手野中にあるのですから、希望のない苦しみはありません。また意味のない苦しみはありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 31:1 私は自分の目と契約を結んだ。  
 どうしておとめに目を留めよう。
- 31:2 神が上から分けてくださる  
 分け前は何か。  
 全能者が高い所から下さる  
 相続財産は何か。
- 31:3 不正をする者にはわざわざいが、  
 不法を行なう者には  
 災難が来るのではないか。
- 31:4 神は私の道を見られないのだろうか。  
 私の歩みをことごとく  
 数えられないのだろうか。
- 31:5 もし私がうそとともに歩み、  
 この足が欺きに急いだのなら、
- 31:6 正しいはかりで私を量るがよい。  
 そうすれば神に私の潔白がわかるだろう。
- 31:7 もし、私の歩みが道からそれ、  
 私の心が自分の目に従って歩み、  
 私の手によごれがついていたなら、
- 31:8 私が種を蒔いて他の人が食べるがよい。  
 私の作物は根こぎにされるがよい。
- 31:9 もしも、私の心が女に惑わされ、  
 隣人の門で  
 待ち伏せしたことがあったなら、
- 31:10 私の妻が他人のために  
 粉をひいてもよい。  
 また、他人が彼女と寝てもよい。
- 31:11 これは恥ずべき行ない、  
 裁判にかけて罰せられる罪だ。
- 31:12 実に、それは  
 滅びの淵まで焼き尽くす火だ。  
 私の収穫をことごとく根こぎにする。
- 31:13 私のしもべや、はしためが、

- 私と争ったとき、  
 もし、私が彼らの言い分を  
 ないがしろにしたことがあるなら、
- 31:14 神が立たれるとき、  
 私はどうすればよいか。  
 また、神がお調べになるとき、  
 何と答えたらよいか。
- 31:15 私を胎内で造られた方は、  
 彼らをも造られたのではないか。  
 私たちを母の胎内に形造られた方は、  
 ただひとりではないか。
- 31:16 もし、私が  
 寄るべのない者の望みを退け、  
 やもめの目を衰え果てさせ、
- 31:17 私ひとりだけで食物を食べて、  
 みなしごにそれを  
 食べさせなかったのなら、
- 31:18 ——私の若いときから、  
 彼は私を父のようにして育ち、  
 私は、母の胎にいたときから、  
 彼女を導いた。 ——
- 31:19 もし、私が、  
 着る物がなくて死にかかっている者や、  
 身をおおう物を持っていない  
 貧しい者を見たとき、
- 31:20 彼の腰が私にあいさつをせず、  
 私の子羊の毛で  
 それが暖められなかったのなら、
- 31:21 あるいは、私を助ける者が  
 門のところにいるのを見ながら、  
 みなしごに向かって私の手を  
 振り上げたことがあるなら、
- 31:22 私の肩の骨が肩から落ち、  
 私の腕がつけ根から折れてもよい。

ヨブは自分には全く罪がないと主張します。確かに人と比べるなら、誰よりも潔白でしょう。しかし神の前には完全な者は1人もいません。正しいことを行うのは大切なことです。しかし、それで自分は非がないと思いつつ、成長やきよめのチャンスを失ってしまいます。またヨブの友人たちのように人を傷つけることもあります。

私たちは、ここでヨブが自己義認を主張する一つ一つを吟味しましょう。その上で、自分は完全ではないからもっと成長したいとの思いが大切です。ピリピ書のパウロのように。

「3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。」ヨブは下の立場の人、弱い人、乏しい人への態度に心を配っていたようです。また神以外のものをより頼むように見えるどんなことも避けていたようです。これらの点でヨブのような良い生き方をしましょう。その上で、まだ成長し、て行きましょう。

ローマ書にあるように、「12:2 ...何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変え」て行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

- 31:23 神からのわざわいは私をおびえさせ、その威厳のゆえに、私は何もすることができないからだ。
- 31:24 もし、私が金をおのれの頼みとし、黄金に向かって、私の抛り頼むもの、と言ったことがあるなら、
- 31:25 あるいは、私の富が多いので喜び、私の手が多くの物を得たので、喜んだことがあるなら、
- 31:26 あるいは、輝く日の光を見、照りながら動く月を見て、
- 31:27 私の心がひそかに惑わされ、手をもって口づけを投げかけたことがあるなら、
- 31:28 これもまた裁判にかけて罰せられる罪だ。私が上なる神を否んだためだ。
- 31:29 あるいは、私を憎む者の衰えているのを私が見て喜び、彼にわざわいが下ったとき、喜び勇んだことがあろうか。
- 31:30 私は自分の口に罪を犯させなかった。のろって彼のいのちを求めようとしなかった。
- 31:31 いったい、私の天幕の人々で、「だれか、彼の肉に飽き足りなかった者はいないか。」と言わなかったことがあろうか。
- 31:32 異国人は外で夜を過ごさず、私は戸口を通りに向けてあけている。
- 31:33 あるいは、私がアダムのように、自分のそむきの罪をおい隠し、自分の咎を胸の中に

- 秘めたことがあろうか。
- 31:34 私が群集の騒ぎにおびえ、一族のさげすみを恐れて黙り、門を出なかったことがあろうか。
- 31:35 だれか私に聞いてくれる者はないものか。見よ。私を確認してくださる方、全能者が私に答えてくださる。私を訴える者が書いた告訴状があれば、
- 31:36 私はそれを肩に負い、冠のように、それをこの身に結びつけ、
- 31:37 私の歩みの数をこの方に告げ、君主のようにして近づきたい。
- 31:38 もし、私の土地が私に向かって叫び、そのうねが共に泣くことがあるなら、
- 31:39 あるいは、私が金を払わないでその産物を食べ、その持ち主のいのちを失わせたことがあるなら、
- 31:40 小麦の代わりにいばらが生え、大麦の代わりに雑草がはびこるように。ヨブのことは終わった。

ヨブが今話せることは、もう尽きてしまいました。彼が地上の誰よりも立派な人であったことがわかります。それにしても神はなぜヨブのような正しい人に、苦しみを与えられたのでしょうか。もしも罪の多い人であったなら、おそらく「因果応報」「自業自得」ということで済まされてしまっただけで、そこからは神の絶対的主権という観念が生まれてこなかったからでしょう。ときには私たちも、「正しいから」「成長しているから」「用いられているから」こそ、試練を与えられることもあるのではないのでしょうか。更なるステップへ、高みへ、または深みへ進ませるためです。ヨブのように正しい生き方を心がけつつ、主か

らの意味ある試練に、希望を持って向かっていきましょう。「1:12 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」とヤコブ書にあるように。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:1 預言者ハバククが預言した宣告。

1:2 主よ。私が助けを求めて叫んでいますが、あなたはいつまで、聞いてくださらないのですか。私が「暴虐。」とあなたに叫んでいますのに、あなたは救ってくださらないのですか。

1:3 なぜ、あなたは私に、わざわざを見させ、労苦をながめておられるのですか。暴行と暴虐は私の前にあり、鬭争があり、争いが起こっています。

1:4 それゆえ、律法は眠り、さばきはいつまでも行なわれません。悪者が正しい人を取り囲み、さばきが曲げて行なわれています。

1:5 異邦の民を見、目を留めよ。驚き、驚け。わたしは一つの事をあなたがたの時代にする。それが告げられても、あなたがたは信じまい。

1:6 見よ。わたしはカルデア人を起こす。強暴で激しい国民だ。これは、自分のものではない住まいを占領しようと、地を広く行き巡る。

1:7 これは、ひどく恐ろしい。自分自身でさばきを行ない、威厳を現わす。

1:8 その馬は、ひょうよりも速く、日暮れの狼よりも敏い。その騎兵は遠くから来て、はね回り、鷲のように獲物を食おうと飛びかかる。

1:9 彼らは来て、みな暴虐をふるう。彼らの顔を東風のように向け、彼らは砂のようにとりこを集める。

1:10 彼らは王たちをあざけり、君主たちをあざ笑う。彼らはすべての要塞をあざ笑い、土を積み上げて、それを攻め取る。

1:11 それから、風のように移って来て、過ぎ

て行く。自分の力を自分の神とする者は罰せられる。

1:12 主よ。あなたは昔から、私の神、私の聖なる方ではありませんか。私たちは死ぬことはありません。主よ。あなたはさばきのために、彼を立て、岩よ、あなたは叱責のために、彼を据えられました。

1:13 あなたの目はあまりきよくて、悪を見ず、労苦に目を留めることができないでしょう。なぜ、裏切り者をながめておられるのですか。悪者が自分より正しい者のみこむとき、なぜ黙っておられるのですか。

1:14 あなたは人を海の魚のように、治める者のないほう虫のようにされます。

1:15 彼は、このすべての者を釣り針で釣り上げ、これを網で引きずり上げ、引き網で集める。こうして、彼は喜び楽しむ。

1:16 それゆえ、彼はその網にいけにえをささげ、その引き網に香をたく。これらによって、彼の分け前が豊かになり、その食物も豊富になるからだ。

1:17 それゆえ、彼はいつもその網を使い続け、容赦なく、諸国の民を殺すのだろうか。

神殿に仕えていたレビ人、ハバククに神様はみことばを託しました。ここでまずハバククはイスラエルが神様に従わず、暴虐様を行う様を訴えます。神様は意外な方法でイスラエルをさばくと言われます。イスラエルよりもっと悪い異教のカルデア人がイスラエルを攻撃するというのです。

それは理不尽なことのように感じますが、むしろ彼らから守られることの方が不思議なことで、それは神様の守りがあればこそなのです。現代の世の中にも攻撃してくる人や組織があるものです。私たちは主の守りがなければ生きていけないこと

を常に肝に銘じて、主に従うべきです。

ハバククはカルデア人がイスラエルを攻撃するということを聞いて、「悪者が自分より正しい者のみこむとき、なぜ黙っておられるのですか。」と神様に訴えます。それは当然のようです。しかし人の悪は神様から見れば同じで、どちらがより正しいということはありません。イスラエルもまた悪者であるのです。

それは私たちも一緒に、「あの人の方が悪いのに」ということはできないのです。

またそれはカルデア人の悪がさらに明確になるためでもあります。主は悪をさばくお方です。そのさばきが正しいことを明らかにするためでもあるのです。

しかし主にはまだ深い御心があるかもしれません。ハバククは早まった考えで神に不満を言うよりも、「主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう。」と主に目を凝らします。それこそが解決の道です。理解できないような出来事が起きるときには、主に注意を向けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:1 私は、見張り所に立ち、とりでにしかと立って見張り、主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう。

2:2 主は私に答えて言われた。幻を書きしるせ。これを読む者が急使として走るために、板の上にはっきり書きしるせ。

2:3 この幻は、なお、定めのためである。それは終わりについて告げ、まやかしを言っていない。もしおそくなくても、それを待て。それは必ず来る。遅れることはない。

2:4 見よ。心のまっすぐでない者は心高ぶる。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。

2:5 実にぶどう酒は欺くものだ。高ぶる者は定まりがない。彼はよみのようにのどを広げ、死のように、足ることを知らない。彼はすべての国々を自分のもとに集め、すべての国々の民を自分のもとにかき集める。

2:6 これらはみな、彼についてあざけりの声をあげ、彼を皮肉り、風刺してこう言わないだろうか。

「ああ。

自分のものでないものを増し加える者。

——いつまでだろうか。——

質物でおのれを肥やす者。」

2:7 あなたをかむ者が突然起き上がり、あなたを揺り動かす者が目ざめないだろうか。あなたは彼らに奪い取られる。

2:8 あなたが多くの国々を略奪したので、ほかのすべての国々の民が、あなたを略奪する。あなたが人の血を流し、国や町や、そのすべての住民に暴力をふるったためだ。

2:9 ああ。自分の家のために不正な利得をむさぼり、わざわいの手からのがれるために、

自分の巢を高い所に据える者。

2:10 あなたは自分の家のために恥ずべきことを計り、多くの国々の民を滅ぼした。あなたのたましいは罪を犯した。

2:11 まことに、石は石垣から叫び、梁は家からこれに答える。

ハバククが神様に求めたことは2節以降です。それは敵からの救いであり、「はっきり書き」しるす価値のあるもので、「急使として走る」ほどにすばらしいもので、また「おそくなくても、それを待」って良いほどに確かなものです。神様からの助けと救いをいただくなら、それほどの信頼を持って待ち続けましょう。

神様は敵と神の民との違いを明らかにされます。敵は「心のまっすぐでない者」すなわち神と真実に向き合えない者であり、また「高ぶる」者すなわち神なしで生きて神に背く者です。それに対して神の民の「正し」さは、別次元のものです。すなわち敵よりもどれほど正しいかという、比較の問題ではなく、信仰の問題であるというのです。

これはイエス様の十字架を信じる信仰を指し示すものです。私たちクリスチャンが神様によって敵から守られるのは、この根拠すなわち「信仰によって生きる」ということにあるのです。

5節以下は敵の不義について書かれています。8節まではむさぼり、11節までは不正な利得です。私たちは自分自身も同じ罪があることを謙遜に認めつつも、主の十字架によって赦されていることを信仰によって感謝しつつ、しかしまた敵への告発を警告として、きよい者となってゆきましましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

